
名探偵コナン最終回～蘭に俺の本当の声で本当の言葉で～

落ちぶれた天使

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

名探偵コナン最終回〜蘭に俺の本当の声で本当の言葉で〜

【Nコード】

N4458Y

【作者名】

落ちぶれた天使

【あらすじ】

事務所で暇していたコナン。

そこに1本の電話がかかってくる。

プロローグ

プロローグ

俺は高校生探偵工藤新一。迷宮なしの名探偵。そんな俺があるひ幼馴染で同級生の毛利蘭と遊園地にあそびにいったって、黒ずくめの男たちの怪しい取引現場をもくげきした。取引を見るのに夢中になっていたおれは背後からちかずいてくるやつらのもうひとりのなかまにきずかなかった。俺はその男にどくやくを飲まされ、目がさめたら体がちじんでしまっていた。組織に工藤新一が生きていると知れたら、また命をねらわれまわりの人間にも危害がおよぶ。はかせの助言でおれは正体をかくすことにし、江戸川コナンとしてらんの家にくるがりこんだ。

そして、いまだ組織のしつぽはつかめず、この体になってしまったからもう半年ほどたつ。

「あーあ。あいかかわらず依頼がこねえじむしよだぜ。」

コナンが暇そうな顔をしてつぶやいた。いま蘭は園子とスキー旅行おっちゃんをあさから麻雀をしにいった。

ブルルブルル

「ん？電話」

プロローグ（後書き）

はじめまして。落ちぶれた天使です。今回初投稿です。まだすつこく未熟で下手ですけどよんでくれたらうれしいです。これからもがんばります。

一本の電話（前書き）

こんばんわw

一本の電話

電話だ・・・。

コナン八受話器をとってうけこたえた。

歩美からだった。

どうやらいまいる銀行が強盗にあっているという。

こなんはすぐかけつけ

見事事件をかいけつした。

テレビ局のインタビューをつけているとき

灰原はうっかりフードをかぶるのをわすれていた。

ジンにみられているともしらずに・・・

じんはにかつと笑うと、

あがさていにむかった

そう、さりげない一本の電話のせいで・・・

そのさりげない一本のでんわのせいで

新一のうんめいの歯車がまわりだす・・・

一本の電話（後書き）

でわまた次回

心の病気(前書き)

こんばんわーw

今日、2回目のとうじです かけるだけこれからもかきまーす

心の病気

雪がちらちらふるなか、灰原哀はいまの家、つまりあがさ亭にむかっていた。

哀は時計をみると、

『19時32分・・・銀行強盗にあってからそろそろ2じかん半・・・』

と、心の中でささやいた。

しばらく歩いているうちにあがさ亭がみえてきた。

門をあけて家の中に入ろうとすると、うしろから車のはしってくる音がした。

哀は、ふりかえったとき、その場でうごけなくなった。

そう、そこにはジンのポルシェがとまっていたのである・・・。

逃げようとしたときにはもうおそかった。

後ろから、睡眠薬をかがされ、

哀はその場できをうしなってしまった。

たまたまそこに歩美があがさ博士に探偵バッジの電池がきれたので

わたそうとしてとおりかかった。

歩美はやつらにみつかるまえにみをかくした。

そこで、哀がポルシェにのせられつれさられる所を

心臓がとまってしまいそうな思い出みていた。

哀がつれさられたあと、

歩美は、コナンの家にいそいだ。

大粒の涙をぼろぼろこぼしながら、

ただ、ひたすらはしった。

大切な、

友達を、

大好きでしかたない人に

助け出してもらいたくて……。

探偵事務所の前にやってきたときは、

もう

涙のせいで、頬がまっかにはれていた。

それでも歩美は友をたすけたいただ一心で、

探偵事務所の階段をかけあがった。

そしておもいきりドアをあけた。

ちょうどそこにはコナンと蘭がいた。

コナンと蘭はおどろいて、

ただ、ひたすら大粒の涙をながしていた歩美に

「どうしたの!？」

「なにがあつたんだ歩美ちゃん！」

と、叫ぶようにいった。

歩美はどうにか事情を伝えようとしたが、

寒さのせいで体はふるえ、

なっていたせいでほおが腫れて

なにも言葉に発せなかった。

ただひたすらなくだけ・・・。

歩美がしゃべりたくても、

しゃべれないのを

蘭はみこして、

あゆみをまかにまねきいれ

肩に毛布をかけ、

涙をふき

あたたかいココアをだした。

10分ほどたってやっとしゃべれるようになった。

そしてあらためコナンが

「なにがあったんだ？」

とたずねるとさっき目撃したことを、

あゆみははなしでした。

歩美がはなしおわると、

蘭はおおいそぎで警察に連絡し、

コナンはFBIのジョディ先生にれんらくした。

それからジョディ先生が毛利探偵事務所に到着すると

コナンはジョディの車に乗り込んだ

「留守番なんてしてられない。歩美もいく！」

「だめだよ。歩美ちゃん。きけんすぎる！」

「でも、哀ちゃん、哀ちゃんは私の友達だもん！」

ひっしさがつたわってくるこの言葉をきいてコナンはにっこり笑うと

「しゃーねーなー。つれてってやるよ。でもついたら歩美は車の中にいんだぞ。」

ついにコナンも歩美のひっしさにみかねてOKした。

「っんー！」

話がまとまると、コナンと歩美はジョディの車にのりこんだ。

「ジョディ先生。灰原のねーさんが殺された倉庫にいつて。あそこがあやしいとおもうんだ。」

コナンは運転席にのりだしていった。

「OK。いいわ。それとその子と、あの茶髪の少女。ちゃんとまもってあげるのよ。」

ジヨディはいいおわるとにっこりわらってくるまをだした。

それにたいしてコナンは、しんけんなひょうじょうで

「うん。もちろん。」

といった。

「灰原哀がいるところ」

「えっ？」

哀が目をおさました。

『どいよにっ．．．？』

哀が起き上がった。そしてふとさっき起こったことを思い出した。

『そう．．．そしきに変なくすりをかがされて．．．』

それからジンの不気味な笑みをおもいだした。

そのとたん、哀は体をふるわせて、ぎゅっと体をすぼめた。

あとでおもいかえしてみると、

気が気じゃなかった。

いずれここにジンがきて殺される．．．

『わかってたのにね。組織をぬけたじてんでこれくらい．．．わか
ってたのに．．．』

哀の頬から一粒の大きな水滴がポロリとおちた。

今までのつらさがどんどんおおきなみずのつぶになっておちていく。

お姉ちゃん

みんな

工藤君・・・

『私のせいでみんな殺されちゃう・・・』

そのとき哀は心がすっからかんになった。

自分ではいままで必死にクールにみせていたけれど

私には、むりね・・・

心の病気（後書き）

こんばんわ〜^^

今回は歩美も哀ちゃんも

とても切ない気持ちになるはなしです^^

最後の哀ちゃんの言葉は、

哀ちゃんの悲しい心のさけびってことで切なくかきました^^

次回はまた哀ちゃんの話です^^

灰原哀心身ともへの救出（前書き）

こんばんわーwまたまた投稿

今日は徹夜でかこーと思いますw

でわいってみよー

灰原哀心身ともにの救出

「ついたわよ。」

ジヨディがふるびた倉庫の前で車をとめた。

「ありがとう。ジヨディ先生。」

コナンが「そういったとたん、ケータイがなった。

「あ、電話……。」

コナンはケータイの通話ボタンをおした。

「もしもし。」

コナンがそうこたえると、ケータイから哀の声がかきこえてきた。

「く、工藤くん？」

コナンはどなりちらすくらい大きなこえで

「は、灰原か!？」

と、2秒もたたないうちにこたえた。

それにたいして哀はおちついたようすで、

「ええ。いま、おねえちゃんがころされたそうこの2階に監禁されてるわ。まどからは木がみえる……。」

哀はひっそりに冷静をよそおった。

心のなかでは恐怖でいっぱいなのをおさえて。

コナンは落ち着いた声になり

「そうか、いまたすけてやっからまってる。」

といい返事もまたずに電話をきった。

それからコナンはきくのぼると

倉庫の窓をのぞきこんだ。

哀がいることを確認すると、窓をあけるとつたえ

中にはいった。

「大丈夫か？」

コナンは哀をみてたずねた。

哀はしたをむいたまま

「ええ。」

とこたえた。

それからコナンは哀をせおってジヨディの車にもどった。

いま組織と鉢合わせにまるのは危険とコナンとジョディが

判断したため、そのまま、倉庫をあとにし、毛利探偵事務所にもどり、

あゆみもふくめ、哀は探偵事務所にはばらくねとまりすることになった。

あゆみももしかしたらやつらに顔を見られていたかもしれないので、

とりあえずコナンのそばにつくことになったのだ。

学校は探偵事務所からかよつことになり

歩美の母には、長期間の合宿とつたえられた。

く組織のやつらがいる倉庫く

さつき、コナンたちがあとにした倉庫のかんきんべやのまえには

ジンがたっていた。

「またきえやがったな。シエリー。」

と不適なえみをつかべじんがタバコをふかしている。

「ちっ。どうしやす？あにき。あの女には、例の薬を完成させてもらわなくちゃならねえんですぜ。」

ウォツカがこわばった表情でいった。

「まあそのうちもどってくるさ。あいつのまわりの誰かを殺すっておどせばやつは簡単にこっちにくる。」

ジンがいった。

するとウォツカがにやりと笑みをつかべた。

〈毛利探偵事務所〉

「だいじょうぶ？さむかったでしょう？」

蘭が3人の肩にもうふをかけ、あたたかいココアをいれた。

歩美はにっこり笑い

「うん！でももう大丈夫だよ」

と、いつもどおりのかわいらしい顔でいった。

一方、哀はうんともすんともいわず、ココアを飲んでいた。

蘭にはどうも、この顔が、とてもかなしげにおもえた。

なにかもすっからかんになってしまったような、悲しい顔。

そして、一番感じたのは、

苦しみや悲しみを全部じぶんでせおいこんでいるような顔であること……。

灰原哀心身ともへの救出（後書き）

えっとへんなとこでおわってすみませんーw

まってるから(前書き)

すいませんつまえのかいとちゅうでおわっちゃったんでさいしよらへんこのまえのつづきかきます。

まってるから

蘭はついに口を開いた。

そしてその優しい目は哀のことをやさしくつつみこんだ。

「なにかあつたの？哀ちゃん。」

哀は驚いた様子で

「え？」

と返した。

それから蘭は優しく笑うと、哀をだきしめ、

「大丈夫よ。哀ちゃんはみんなに必要とされてるわ。この世にいなくなっただけいい人なんていないんだもの。たとえそれがどんな人でも・・・人は、神様がくれた、ひとつひとつなかがみがちがう宝箱。宝物なんだから。」

蘭の優しくして、純粋なその心にふれ哀は、姉の宮野明美のことを思い出した。

哀はすこしだけやさしく微笑んだ。

それから蘭のほづをむくと、

「あなた、いい母親になれるんじゃない。」

とほほえみながらいった。

それをみていたコナンも、やさしく微笑んでいた。

くまってるから〜

5月1日

歩美のかわいらしい声が毛利探偵事務所にひびきわたった。

「蘭おねーさん、おじさん。学校いってきまーす。」

「いつてらっしやーい。」

蘭もにっこりしてコナン達にてをふった。

3人は探偵事務所をでると学校にむかって歩き出した。

学校について教室に入ると、それぞれ自分の席にむかった。

ふつーに授業をつけると、もう下校時間だった。

今日はなにもないのでたったといえにかえった。歩美は蘭と買い物にでかけていて

哀は散歩。

おっちゃんは浮気調査でふざいだった。

しばらくすると、おっちゃん、蘭と歩美がかえってきた。

「ただどいつまでたっても家にもどらなかった。」

「コナンが哀のケータイに電話をすると」

「おうとうがあつた。」

「今どこにいるんだ？」

「組織の倉庫よ。」

「なんでそんなところに？」

「散歩の途中、ジンにあつてね、知り合いを殺されなくなかったら、組織にもどって薬の研究をすすめるって。それで、要求をのんだってわけ。」

「バカヤロオ！なんでそんな要求を！」

「私は、ただ要求をのんだんじゃないわ。とりあえず時間をつくっただけ。あなたがここにくるまで
きながにまってるから。たのんだわよ。じゃあ。」

そついいのこすと哀はいっぱうてきに電話をきってしまった。

コナンはしばらくかんがえこむと、

「まってるよー！」

というときーたいをおいた。

まってるから(後書き)

このやつはちょっとつまんないかも・・・でもまあかんべんしてく
ださい>><

やじじいなるの。(前書き)

こんばんわーwさあいつてみよーw

アジアンなの？

5月2日

いま、蘭はコナンの追跡めがねをコナンが寝ている間に、もちだし、バッチの発信機をたよりに、

いつまでたってもどらない、哀をさがしていた。

ついに蘭は哀がいる、倉庫にやってきた。

「じ、ここに哀ちゃんがいるのね・・・」

そのつぶやくと、つぶしをぎゅっとにぎりしめた。

そのとき鈍いおとがして、蘭は、きゅうに気が遠くなった。

そしてそのばできをうしなってしまうた。

そのすぐ後ろには鉄パイプをもったウォッカと煙草をふかしている、ジンがいた。

『新一、新一!』

蘭が太目をさました。

「どうよ!どう?」

そこはどこかの森のなかのようだった。

「どーして私がこんなところに?」

そのとき頭に激痛がはしった。

「いたっ
」

園激痛でさっきおこったことを蘭はすべて思い出した。

「そっか。私あのときうつしろからなぐられて……。とどにかく
このことをお父さんにっ。」

そういうと蘭はケータイをとりだし事務所にでんわをかけた。

でたのはコナンだった。

「どーしたの。らんねーちゃん。」

「あ、あのね、哀ちゃんが麻になってももどらないからしんぱいになって、コナンくんの追跡メガネで哀ちゃんを、さがしてたの。」

「え!？」

「それでね。急にうしろからなぐられて私、きをうしなっちゃって・

「・・・」

「それでいまどこにいるの!？」

「どこかのもりよ。でも、どこだかは」

「だいじょーぶ。ケータイのじーピーえすですぐそっちにおじさん
といくから。じゃあまってね。」

「ええ。」

そういつと電話が切れた。

そのときふと蘭はおもった。

新一、新一なら哀ちゃんも私もかんとんに・・・

簡単に、

たすけてくれるのに・・・

どっ、どっいつちやったのよ・・・！

新一・・・！

本当に、あなたはいまどこにいるの？

なにをして、

何を食べ、

わらってるの？

そして、

もう、会えないの？

あなたはいきてるの？

あなたは私がいなくてさびしい？

私はさびしいよ。

ないでもないも

とてもおさえきれないぐらいに・・・

新・・・

私はあなたのこと大好きだよ・・・？

あなたのことは

忘れられない。

ぜったいに・・・。

まってるからね・・・

まってる・・・

まってるよ・・・

蘭が静かにめをとじた・・・。

やじだいるの？（後書き）

このはなしは蘭ちゃんの苦しみがつたわってくるようかきました。
これからもがんばろーとおもいますwでわw

灰原心（前書き）

こんばんわんWさっそくいってみまーすW

灰原心

「蘭ねーちゃん。蘭ねーちゃん。」

「え?」

「やっと目がさめたんだね。よかった。僕お医者さんよんでくるー」

「え、コナンくん。」

そういって、コナンは病室をでていった。

どうやらここは病院みたい・・・

蘭はまだきりきりと傷む頭をおさえおきあがった。

「いたッ。私、いつのまにかねちゃったみたい。」

コナンが医者をつれふたたび病室にはいつてきた。

「もう大丈夫でしょう。これなら、明日には退院できますよ。」

医者が言った言葉に小五郎は目の色をかえ

「らん。本当によかったっ！」

とらんにだきついた。

コナンもほっとした様子で、蘭をみていた。

くそのころ哀はく

こんなくらくてケータイとパソコンと食料と実験道具しかないなんて

いやね。

たまにかかってくるジンからの電話は、

薬の開発をいそげってことばっか。

工藤くんもぜんぜん電話してこないところを見ると

まだなにもしてんしてないのね・・・。

たく、あのホームズ気取りの名探偵さんはいつたいなにやってんのよ・・・。

はやくてがかりつかんでこんなうすつきみわるいところから

開放してよね。

たく・・・。

灰原心（後書き）

きょうみじかくてすいませんっ

つぎながかくんで。でわw

正体（前書き）

今回もいってみよーW

正体

学校の帰り道・・・

「おい、今日、博士んちでげーむやるっぜ。」

元太がにこにこしながらいった。

それにはたいしてみつひこと歩美もにっこりしながら

「いいですね〜」

「やるやる〜」

といった。

よ〜で「ナンもやさしくわらいながらみまもっていた。

ピリピリリ・・・

コナンのケータイがなった。

ジヨディ先生からだった。

コナンはケータイの通話ボタンをおすと、

「どうしたの？」

ときいた。

「ちょうど授業がおわったころかしら？」

「うん。で、どうしたの？」

「ちょっとクールキッドに話したいことがあってね。今、あがささんの家にいるからきてくれる？」

「いいんだけど、あいつらもいっしょでいい？歩美ちゃんは帰るばしょがいっしょだし、あいつら、いまから博士んちでゲームやるっ

てはっしやいでて。」

「いいわ。かえったら、研究室にきてくれる？」

「わかった。じゃあまたあとでね。ジヨディ先生。」

コナンはそういつと電話をきった。

ジヨディと電話しているうちにもつアガサ博士んちのめのまえにきていた。

中に入ると、歩美たちは

「ゲームやるつ。」

「やいば²やるつぜ。」

「みんなでやりましょう。」

とってゲームを شدした。

「ナンはらんどせるをおくと地下室におりていった。

あとからはかせもおりていった。

ちかしつのとびらをあけると、ジョディがまっていた。

「で、なにがあったの？組織のことなんでしょ。」

「ええ。まあ。昨日、水梨玲奈から電話があつてね。」

「どんな電話なんじゃ？」

「ジンが、ある死んだはずの人物をロンドンでみたつて。それで組織は今園人物をさがしてるつて。だからきをつけてつて。」

「まさかそのじんぶつつて……」

「高校生探偵の工藤新一よ。」

正体（後書き）

続く・・・

江戸川コナン誘拐事件（前書き）

今日のはらはらほらほらきとほらほら

江戸川コナン誘拐事件

ジヨデイ「やっぱりそうだったのね。」

コナン「え？」

コナンが不思議そうにジヨデイにいった。

ジヨデイ「だって、どうかんがえたって、小学一年生の頭脳じゃないもの。私たちもこしてるし。」

コナン「へへへへへ・・・」

コナンがごまかすようにわらった。

ジヨデイ「じゃあ私はかえるわね。みんなにこっそり護衛をつける準備をしなくちゃいけないから。」

「もちろん君にはわたしが・・・」

ジヨデイがそっぴいかけたとき、コナンは笑いながらいった。

コナン「ぼくはいいよ。」

ジヨディ「え、なんで!?! いちばん危険なのはクールキッド、あなたなのよ!」

コナン「護衛なんてつけたら、逆に正体ばれちゃうよ。」

ジヨディはすこし不満そうな顔をしてあがさ邸をでた。

それにつづき、コナン達も家をでた。

歩美「コナンくんバイバイ」

コナン「おっ」

そういつとコナンはひとりになった。

そのあとコナンは工藤邸にはいった。

コナン「とりあえず、掃除すっか。ずっと、俺の部屋とか掃除してねえし。」

そういつと、コナンは掃除機をかけはじめた。

「そのころ組織では」

ジン「工藤新一……。まだみつからねえか？」

ジンがウォッカにたずねた。

ウォッカ「へい……まだ……」

ウォッカがそういつとジンがたちあがった。

ジン「工藤邸だ。工藤邸にいくぞ。」

ジンがそういつと、ウォッカはにんまりとして車をだした。

ジンとウォッカがそこをでていくと、

隣のへやで、ききみみをたてていた、哀はつごけなくなった。

それから哀はケータイに震える手で、

今あった出来事を入力して、メールをおくった。

倉庫から工藤邸までは10分かからない。いまメールを打つのに、7分はかかってしまった。

―そのころ工藤邸では―

コナン「ん、メール？げ、灰原からだ。」

コナンはそういうと、ケータイをてにとり、メールをみた。

メールを見たとたん、コナンは青ざめて、まどのそとをみた。

ジンのポリシエがこっちにむかってはしっってきている。

コナンはあせると、

コナン「やっべえ。」

とって、工藤ていをでて、スケボーをとばした。

もちろん、工藤邸から、スケボーを、あんな華麗にのりこなす、子供がでてくるのをみのがしはしない。

ジンは車でコナンを追いかけた。

ジン「小僧をうて！」

ジンがそういうと、ウォッカは窓から銃をだし、コナンをぞげきしようとした。

だが、コナンはそれを軽々かわした。

そのときだ。

コナンのスケボーの車輪がうたれた。

コナンは当然ころげおちた。

ジンの車のうしろから、

もう一台車がでてきて、窓からは銃をつきだしている。

そこから顔をのぞかせているのは、

キャンティだった。

コナンが落ちたのを見たジンは車をとめ、

コナンの肩をそげきした。

痛みでコナンはその場からうごけなかった。

ジン「きていたのか、キャンティ。」

キャンティ「ああ。」

その言葉を交わすと、ジンとウォッカはコナンにゆっくり近づいた。

コナンはまだ痛みでうごけなかった。

そこにやってきた二人はコナンの腹を足でつけた。

コナンは気を失った。

気を失ったコナンを見ながら、ジンがいった。

ジン「こいつを組織の地下の監禁部屋にぶち込んどけ。あとで、尋問しているいろはさせる。」

ウォツカ「へい。あにき。」

そういうと、ウォツカが車の後部座席にコナンをほつりこんだ。

ジンも車にもどろうとしたとき、

ジンは、じっとみつめるような視線をかんじた。

ふりむくと誰もいなかったのでジンは目的ははたせだし、まあよしとしよう」と、くるまにのって

キャンティヤ、ウォッカとともに工藤邸のまえをはしりさった。

そのとき、視線をはなっていたのは、歩美達だった。

3人はもうぼろぼろ涙をながしていた。

歩美「コ、コナン君・・・」

光彦「と、とりあえず、け、警察に電話しましょう・・・。」

元太「お、おう・・・」

そういうと光彦はケータイをてにとって、震える手でボタンをおした。

警視庁「はい。こちら、警視庁司令部。」

光彦「あ、あの、めぐれ警部おねがいします。」

めぐれ「はい。めぐれ。」

光彦「め、めぐれ警部・・・」

めぐれ「おお。光彦君。どうしたんだい？」

光彦「じ、じつは、コ、コナン君が、銃でうたれて、ゆうかいされ
たんです！」

めぐれ「なにー？それは本当なのかねっ」

光彦「本当にきまつてるでしょう！」

めぐれ「で、君たちはいまどこにいるのかね？」

光彦「あがさ博士の家のまえです・・・」

めぐれ「わかった。すぐいくから君たちはあがささんの家でまって
なさい。」

光彦「はい・・・」

そついうと電話は「きれた。」

光彦たちはとぼとぼ泣きながらあがさ博士の家に入っていった。

江戸川コナン誘拐事件（後書き）

でわまた W

江戸川コナン誘拐事件？（前書き）

さあいってみよー

江戸川コナン誘拐事件？

ー15分後ー

ピンポーン

あがさ「はい」

めぐれ「子供たちは？」

あがさ「一応あったことは話してくれたたんじゃが、なきやまなくつてのお。」

佐藤「無理もないわ。目の前で友達が撃たれたんだから。」

そういつと、あがさ、めぐれ、高木、佐藤、白鳥は、歩美たちとこまでやってきた。

あがさ「ほね。けいぶさんたちがきてくれたぞ。」

げんた「めぐれ・・・警部」

めぐれ「なにがあったか、はなしてくれるかい？」

歩美「う、うん・・・。」

光彦「ぼくたち、とちゅうまで、かえったんですけど・・・。」

元太「おれが、はかせんちにわすれもんしちまったことおもいだしてよお・・・。」

歩美「それを、私たち、はかせんちにとりにいこうっておもって、はかせんちにもどろうとして、」

「はかせんちのまえのまがりかどまできたら」

光彦「コナンくんが黒い車においかけられてるみたいで怖い顔をして、スケボーをとばしてたんです・・・。」

元太「俺たち、ひかれそうになっちまってよう、でんちゅうばしらにくつついたんだよ。」

歩美「そしたら、その黒い車、まどから銃をだして、コナン君をう

千葉「けいぶー。ちょっといったところに、コナン君のスケボーがおちてました。」

そのスケボーは見事に車輪をうちぬかれていた。

めぐれ「かんしきいそげ！」

「私達は今日はこれで失礼します。子供たちもつかれているでしょうし……。では。」

そついうとめぐれたちはあがさ邸をでていった。

ーそのころのコナンー

コナン「ん、おれきぜつしてたのか？」

コナンがおきあがった。まだはらがきりきりいたんだ。

コナン「どこだ？どこ？」

どこか狭い地下室のようだった。その瞬間、コナンはぞっきおっつたことをおもいだした。

体はさいわいしぼられていなかった。

ジン「おめざめか？工藤新一？」

うしろからジンのこえがした。

ふりむくとジンとウォッカがいた。

江戸川コナン誘拐事件？（後書き）

つづくのだ・・・w

江戸川コナン監禁事件（前書き）

タイトル、誘拐から、監禁にかわったぞよ

江戸川コナン監禁事件

コナン「ジン、ウオツカ!？」

コナンがおどろくようにいった。

コナン「クソツてことはここは組織の!？」

ジン「ご名答……。まさかガキの姿になっていきるとはな……」

コナン「灰原は？シエリーはどうした!？」

ジン「やつなら、違う倉庫でベルモットといる……。まあ、じきにここへくるだろうが……。」

コナン「で？俺をどうするつもりだ!？」

ジン「さあな……。まずはお前の身体検査からだ……。ウオツカ!」

ウォツカ「へい兄貴！」

そういつとウォツカはコナンの体を調べ始めた。

そしてケータイ2つと、探偵団バッチをコナンからうばった。

ジン「まあ、しばらくお前にはここでじっとしててもらおう。もうすぐベルモットとシェリーがここにくる。」

「それまで念仏でもとなえておくんだな。」

ジンがそういつと、ウォツカがコナンの体をきつくロープでしばった。

コナンをしばりあげたあと、2人は地下室をでていった。

江戸川コナン監禁事件（後書き）

やほーwアクセス数なう

江戸川コナン監禁事件？（前書き）

アクセス数やばっwみなさんのおかげでぶ
これからもがんばるなう

江戸川コナン監禁事件？

―組織の地下室―

コナンはとりあえずベルモットをまつことにした。

地下室は狭くてくらく、灰原の気持ちがあわかつたきがした。

コナン「（おっせえなあ、ベルモットと灰原。あれ？でもなんで灰原までくるんだ？）」「

そんなことを考えているうちに、地下室の扉があいた。

ベルモットが入ってきた。

コナン「あれ、灰原は？」

ベルモット「シェリーなら上の研究室、ここにしかない、資料をみてるわ。」

コナン「だからあいつもきたのか……。」

ベルモット「私はあのコのみはりと、キャンティとコルンがかえってくるまでのただの見張り役よ?。」

コナン「キャンティとコルン? 奴等もここにくんのか!?。」

ベルモット「ええ。そうよ? 驚いた? 私のいとしのシルバブレックト君?。」

コナン「あいつらスナイパーだろ? なんで、俺のみはりなんかに?。」

ベルモット「いろいろあつてねえ。組織で人の手配がまにあつてないのよ。」

「それにあなたにいろいろ聞きたいことがあるみたいよ……?。」

コナン「聞きたいこと?。」

ベルモット「それとね、私がわざわざここにきたのにはもうひとつ理由があるわ……。」

コナン「理由?。」

ベルモット「ジンからの命令であなたなしでかすかわからないからって、睡眠薬をのませろっていわれてね。」

そういうとベルモットはポケットから麻酔薬をとりだしてコナンに麻酔薬をさしだしながら、

ベルモット「飲む?」

ときいた。とうぜん「なんも

コナン「んなもんのむわけねえだろ」

とかえした。

そのときベルモットがコナンのあごをつかみむりやり睡眠薬をコナンのくちにおしこんだ。

コナンがねむったのを確認すると、ベルモットはさっさといった。

江戸川コナン監禁事件？（後書き）

身じくくたすんませんなう・・・><

江戸川コナン監禁事件？（前書き）

昨日みじかくてすみませんなう！！！

今日はばりばりがんばるなう！！！

江戸川コナン監禁事件？

キャンティ「これがあの工藤新一？」

キャンティの声がきこえてきた。

コナンはゆっくりと目をあけた。

そこにはもうベルモットの姿はなくなかわりにキャンティとコロンがめんどくさそうにたっていた。

キャンティ「おめざめのような名探偵？」

コナン「キャンティ、コロン！」

キャンティ「あら、あたいらのこともけっこつつかんでるようだね
！」

コロン「おれ、狩りにいきたい・・・」

キャンティ「あんたはだまってな！！これもあの方の命令さ」

コロン「あの方・・・わかった・・・」

コナンはまだくらくらする頭をおさえながらおきあがった。

知らないうちにロープはきれていた。

キャンティ「さあはいてもらおうか、あなたの体がちじんだことを
知っている人物を？」

そういうとキャンティはコナンの頭に銃をおしつけた。

コナン「そんなやつ、いないさ」

コナンはあわてることもなく、平気な顔をしながら、こたえた。

それにキャンティはすこしばかりきれたらしく、

舌打ちするとコナンをけとばした。

それからコナンはいつさいこたえなかった。

おかげでけられたりなげとばされたり銃で足をかすめられたり全身ぼろぼろになった。

しばらくしてからキャンティは10分後またはなしをきくといってそとにでていった。

コナンはこのチャンスをのがしわしなかった。

へやにあったちいさな換気口からコナンはそとにでた。

コナン「ふーとりあえずだしゅつしたはいいけどこれからどうすんだ？」

「ケータイとられちまったし……。とりあえず交番にかけこむか！」

コナンはそういつとところどころいたむところをがまんしながら交番にやってきた。

ブルルブルルル

博士のうちの電話が鳴った。

少年探偵団はいつきに電話に注目した。

あがさ「もしもしあがさです。」

めぐれ「おおあがささん！コナンくんがほごされた。いま警察病院で手当をつけている。」

「悪いがすぐきてくれんか？」

あがさ「ほんとか！？よかったよかった。いますぐ子供たちをつれて病院にいきます！！！」

そついつと電話がきれた。

あがさ「みんな！！コナンくんがみつかったぞ！！」

歩美「ほんと！？」

光彦「ほんとですか!?!」

げんた「まじかよ!?!」

あがさ「ああ。いま警察病院で手当をつけているそうじゃ。きみらもいくかね?」

歩美「いくいく!?!」

光彦「いきます!?!」

げんた「いくにきまつてんだろ!?!」

そういつとあがさはかせたちは警察病院にやってきました。」

がらがら

病室のどあがひらいた。

歩美「コナンくん!?!」

光彦「ぶじだったんですね!？」

げんた「コナンく！」

コナン「おまえら!」

コナンは頭とかたに包帯をまいていた。

江戸川コナン監禁事件？（後書き）

今日もちょっとみじかい？なう！

疑い（前書き）

今日2回目なう

疑い

めぐれ「さっそくだがコナンくん。なにがあつたかはなしてくれるかね。」

コナン「うん。僕、つれさられたあと、変な工場の地下室にきずいたら監禁されてたんだ。」

「それで、誘拐犯がいなくなったときにちいさな換気口から脱出したんだ。」

めぐれ「歩美君たちが、君をつれさるさい、誘拐犯が尋問するとかいってたらしいが、」

「尋問されたのかい？」

コナン「あ、えと……だ、大丈夫！さ、されてないよ！へへへ……」

コナンは苦笑いをした。

そんなコナンを一同は啞然とした顔でみた。

コナン「え……？」

元太「コナン……おめえほんと嘘つくのへただな……」

コナン「え、う、嘘じゃないよ、やだなもう元太ったら……ははは」

光彦「幼稚園児がみたって一発でわかりますよ……嘘だって……」

歩美「コナンくん……」

佐藤「コナンくん。本当のことはなしてくれるかしら？」

コナン「あーいや、その……へへへ……」

高木「コナン君……」

コナン「う、嘘なんて僕がつくわけないじゃない？」

歩美「もうあきらめなよ」

元太「そうだぞコナン！」

佐藤「それとも、いえない理由でもあるのかしら……？」

コナン「え……」

高木「そうなのかい？コナンくん。」

光彦「そうなんですネ！」

コナン「な、何いってんだよ！みんなして！俺が！つそ！つく！ようにみえるか？」

一同は声をそろえていった

『みえる！……！……！』

コナンはあきらめたようにため息をついた。

コナン「はあ……」

それからコナンは子供のような顔をする。

コナン「はなさなくちゃ、だめ？」

ときいた。

また一同はこえをそろえてきっぱりと

『だぐめ！！！』

といった。

コナンはもう一度ため息をつくときさい声でいった。

コナン「されたよ？これだけじゃ・・・だめ？」

光彦「だめです！！！それだけじゃなんで誘拐犯がコナン君をさらったか分からないでしょう！！！」

佐藤「そうよ。コナン君、もっとくわしくおしえてくれるかしら。」

コナン「じ、実はわすれちゃったんだ！ほら、僕こどもだから！！」

また一同が啞然するなか、あがさはかせが苦笑いしながらコナンをかばった。

あがさ「ま、まあコナン君もつかれてることじゃろうし、事情聴取は、また今度つてことでどうじゃ！？」

めぐれ「そ、そうだな。じゃあまた後日事情聴取をしましょう。」

一応一同は納得したとみえたが、まだ納得していなかったものもいた。

佐藤「なんか、あのあわて方、なんかありそうじゃない？」

高木「はい……。ちょっとオーバーすぎますよね……。」

佐藤「ねえ、高木くん。コナン君の過去について、調べてくれない？」

「私は、コナン君の戸籍調べるから。」

佐藤「あ、はい！わかりました！」

そういうと二人は病室をでていった。

一方、少年探偵団もコナンのことをふしんにおもっていた。

歩美「ぜったい、コナン君、なにかあるよね！」

光彦「はい！なにかあるにちがいません！」

元太「でもそれをどーやってききだすんだよっ」

光彦「ぼくにいい方法があります！」

そういうと光彦はおもちゃの手錠をだした。

歩美「で、でも、それはちょっとコナン君があかわいそうよ。」

元太「でもよ。逆にあいつのためになんじゃねえか？」

光彦「そうですよー！」

歩美「そ、そうよね・・・！」

あがさ「君たち、かえるぞ。」

歩美「私達、もうちょっとコナン君とおはなししてくー！」

光彦「だから博士はさきにかえっててくださいー！」

あがさ「そうか。くらくなならないうちにかえるんじゃよ。」

そついとあがさは病室をでていった。

それと同時にめぐれも病室をでていった。

そしてびょうしつはコナンと少年探偵団だけになった。

すると光彦はコナンにかけよって

光彦「ごめんなさい！！！！」

とってコナンの片手におもちゃの手錠をかけもう片方をベットの
はしにくくりつけた。

コナン「ええ、ちょっと！！！！なに！！！！」

とあわてた。

そしてもう片方の中には 元太と歩美がかけより

反対側のとて同じように手におもちゃの手錠をかけもう片方をべっ
とのはしにくくりつけた。

歩美「ごめんねコナン君！！！！」

コナンは両手がふさがれた。おもちゃだからといって、そう簡単に
ははずれない。

コナン「お、おい！なんだよこれ！」

コナンははずそうとして手錠をひっぱった。

光彦「コナン君、本当のことをはなしてください！……！」

歩美「おねがいコナン君！……！」

げんた「おれら友達だろ！……！」

コナン「だからなにもかくしてないって。」

コナンはまだ手錠をはずそうとしながらいった。

歩美「おねがいだよコナン君……私達、コナン君のこと、しんぱいで……。」

光彦「灰原さんも、さらわれちゃいましたし……。」

げんた「おれら、友達がつぎつぎにさらわれて、心配なんだよ……。」

3人のめは涙ぐんでいた。

コナンはわらうと口を開いた。

コナン「わかった。はなしてやる。」

歩美「じゃあ!」

コナン「でもいまはまってくれねーか?」

光彦「え?」

コナン「時がきたら、お前らにはすべてはなしてやるから、その時までもうすこし、」

「まってくれねーか?」

コナンの意味ありげな言葉に、少年探偵団一同はにっこりし、

光彦「はい!」

歩美「うん！」

げんた「ぜつたいだぞ！」

とつぎつぎにいった。

それからコナンは苦笑いをするど、

コナン「それと、この手錠はずしてくれねーか？」

といった。

光彦たちはうなずくとコナンの手錠をはずした。

「そのころジンたちは」

ジン「ガキはどこにいった？」

ウォッカ「この換気口から、にげたみたいですよせあにぎ。」

ジン「おもしろいじゃねーか。キャンティ、コルン、あのガキをすぐにつかまえてここにつれてこい！……！」

ジンがいった。

キャンティ「あいよ。」

コルン「つかまえる……分かった……。」

そういうと2人は勢いよくでていった。

「そのころの佐藤、高木」

佐藤「た、高木くん……。」

高木「はい、佐藤さん」

佐藤「ないのよ、コナン君の戸籍が……。」

高木「ええ！……じゃ、じゃあコナン君は、いったい何者なんだ！？」

佐藤「海外の戸籍もしらべたけど、江戸川コナンなんて人間、この世に存在しないわ!」

高木「僕のほうでも、コナン君のたんでいじむしょにあらわれるまでの過去をさぐってみたんですが、
いつさい、探偵事務所にあらわれるまで、目撃されてないんです!」

佐藤「いったいどうして!？」

高木「それと、コナン君が現れた日から、姿をけして、おとさたない人物がいるんです。」

佐藤「え?」

高木「工藤くんですよ!」

佐藤「まさか……。高木君!すぐにコナン君の指紋と工藤君の指紋をしようござうして!」

高木「え!？」

佐藤「はやく! ! ! ! !」

疑い（後書き）

今回おもしろくなかったなう・・・

佐藤と高木（前書き）

やほーwめちやめちや腹いたなうー!!!!

佐藤と高木

高木「はは・・・こんなことって・・・」

高木刑事はコナンの指紋と新一の指紋を照合した結果をみながら冷や汗をたらしていた。

高木「し、指紋が、い、一致してる・・・!?!」

佐藤「どうだった？高木君」

高木「そ、それが」

佐藤「一致したのね・・・まさかとは思ったけど・・・」

高木「はい・・・」

佐藤「でもどうしてあんな姿に？しかもどうして正体をかくしているのかしら・・・?」

高木「ですよね・・・」

佐藤「やっぱコナン君に直接きくしかないわね……」

―そのころコナンは―

コナン「（しかしこれからどうすつかー？俺が気づいたらいなくなつてんだ。組織の奴等もこれこそ血眼になって俺をさがすだろーしな……それに、なんか佐藤刑事俺のことあやしんでたような気がするんだよなー。こりゃ、いろいろ大変になってきたなー……」

コナンはベッドに横たわりながらボーっとしていた。

次第にコナンはねむくなり、そのまま眠りについた。

―そのころキャンティとコルンは―

キャンティ「たく、いったいあのガキどこにいったんだい？」

コルン「あいつの……家には……いなかった……」

キャンティ「となると病院だが、どうせいるとしたら警察病院だね・

「・・・となるとやつかいだよ。」

「近くにサツがいる可能性がたかいね・・・簡単につれだせないよ」

「コルン」うん・・・とりあえず、ジンに・・・連絡・・・」

キャンティ「ああ。そうだね。」

佐藤と高木（後書き）

みじかっなう！！！

復活！東の名探偵（前書き）

やほーなう

復活！東の名探偵

ジン「やはり、家にはもどってないか・・・」

キャンティ「ああ。どうせ警察病院だろうよ。」

ジン「じゃあお前らとほかのメンバーであいつの家のまわりや通り
そうなどこをはってあげ。」

「けがといってもあれはたいしたけがじゃねえ。すぐにでてくるだ
ろう」

キャンティ「あいよ。ジン」

「一方コナンの病室では」

いしゃ「うん、これだったら明日にでも退院できるでしょう」

蘭「ほんとですか！よかったねコナン君！」

コナン「うん！」

蘭「じゃあ明日の朝むかえにくるから、今日はお姉ちゃん、かえ
るね」

コナン「うん！」

そついうと蘭は病室をでていった。

コナンはそのまま考え込んだ。

コナン「(さてどーすつか・・・俺のみのまわりで奴等がはってか
もしれねーし、俺が退院したとわかったらすぐ行動にでるだろーし・
・まったく、どーすりゃいいんだよ・・・ま、とりあえずあさっ
ての学校の帰りにでもはかせんちによつてくか・・・)」

コナンはかんがえているうちに深い眠りについた・・・。

ー翌日ー

コナン達はめでたく退院して探偵事務所にいた。

蘭「コナンくん、晩御飯なにがいい？」

コナン「なんでもいいよー」

コナンは必死に子供のようにふるまった。

それから1時間くらいすると、

晩御飯がでてきた。

蘭「明日はコナン君、学校だね」

コナン「うん」

蘭「また誘拐なんてされちゃだめよ？ちゃんとコナン君が帰ってこ
られるように、ある人たちにおねがひしたから」

コナン「ある、人たち？」

コナンは顔をしかめた。

蘭「少年探偵団のみんなよ」

コナン「え!？」

蘭「歩美ちゃんがね、コナン君が入院してるあいだに自分のうちにかえったじゃない?そのかえりぎわに、しばらく帰るときはコナン君をここまでおくりとどけてくれるって」

コナン「まじ!?!」

「(あいつら、余計」なことを)」

蘭「ほら、ご飯たべおわったらはやくねなさい、明日の準備してね」

コナン「はい」

コナンはそういつとリビングをでて布団にもぐった。

復活！東の名探偵（後書き）

うぶ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4458y/>

名探偵コナン最終回～蘭に俺の本当の声で本当の言葉で～

2011年11月18日06時14分発行